

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

令和6年度を「R6n」、令和6年を「R6」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老人人口（65歳以上）	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
R2		44,624 (14.3%)	198,366 (63.5%)	69,637 (22.3%)	322,503
R6		44,591 (13.6%)	209,244 (64.0%)	73,189 (22.4%)	336,893
	全市	199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
R2		15,726 (10.1%)	72,799 (46.6%)	156,161	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での避難所の開設・運営に関して、地域・学校・区の役割分担を明確にした開設運営計画に基づく避難所開設訓練を R4n 末までに全校区で実施している。また、災害時の避難支援が必要な避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成を促進するため、累計 12 校区でワークショップを実施。ワークショップが R5n に終了した 4 校区ではフォローアップを実施し、また、そのうち 1 校区については、作成した個別避難計画を活用した防災訓練を実施している。自然環境や社会情勢の変化などにより複雑化する災害対応について、各校区における「自助」「共助」の意識醸成や取組み促進を継続させる必要がある。 ・地域の安全・安心マップの更新支援、警察や地域と連携した交通安全推進・飲酒運転撲滅運動やニセ電話詐欺防止などの市民啓発を実施している。依然として飲酒運転は後を絶たず、さらに、ニセ電話詐欺の手口が巧妙化しているため、引き続き安全・安心のまちづくりに向けた市民啓発を実施する必要がある。 ・放置自転車対策やごみ出しルールの啓発などモラル・マナー向上に取り組んでおり、特に外国人に対し、外国語版のごみの出し方ルールのチラシによる情報提供や、日本語学校での講習会などを実施しているほか、R6n には外国人来庁者に対し、よりきめ細かな対応を行うことで、外国人も安心して利用できる区役所づくりを行うため、『外国人専用総合案内窓口』を開設。在住外国人数は増加を続けており、引き続き外国人が安心して暮らせるまちづくりに取り組む必要がある。 ・生活道路については、歩行空間等のバリアフリー化や交通安全施設の整備とともに、老朽化がみられる路線において、計画的・効率的に改修・改善を進めていく必要がある。
-------	---

今後	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、各校区における避難所開設訓練を継続して支援するとともに、地域住民主体による避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成促進及び個別避難計画を活用した防災訓練など避難の実効性を担保する取組みを引き続きしていく。 ・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅や多様な犯罪への対応に向け、地域や関係機関と協同で市民啓発などを推進する。 ・在住外国人へのモラル・マナーの啓発や、情報提供、生活支援に引き続き取り組むとともに、日本人にも外国人にも暮らしやすいまちづくりに向けた取組みを進める。 ・安全で快適な生活基盤づくりのため、歩行空間等のバリアフリー化やゾーン30、路側帯カラー等の交通安全施設の整備とともに、老朽化がみられる路線において、道路施設個別施設計画に基づく維持管理を推進する。
----	---

子どもが健やかに育つまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の発生予防・早期発見・再発防止に向けては、「東区要保護児童支援地域協議会」の取組みを基本とし、「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、スクールソーシャルワーカーや関係機関、子ども食堂等、地域の社会資源とも連携強化を図っている。さらに、教職員や児童の知識・スキル向上を図るため、子どもへの暴力防止プログラム(CAPプログラム)を11校で実施している。また、育児相談や子育て教室を対面に加えてオンラインでも行い、育児不安の解消や子育て家庭の孤立防止に取り組むとともに、R5.9からプッシュ型の子育て支援を試行している。家庭問題の複雑化・多様化や児童虐待相談対応件数の増加を踏まえ、R6.4に設置した「こども家庭センター」のさらなる機能強化が必要である。 ・地域と共に働く身近な公園の適切な管理や、保育園・学校等での交通安全教室を行っている。今後も、子どもを安全に、安心して育てられる環境づくりを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども家庭センター」として母子保健と児童福祉の一体的な相談支援を行うとともに、児童相談所や関係機関との連携をより一層強化する。また、CAPプログラムの実施、プッシュ型の子育て支援、対面・オンライン等による育児相談や子育て教室等を充実させ、児童虐待の発生予防・早期発見、子育て家庭の孤立予防に、引き続き積極的に取り組んでいく。 ・公園等の適切な管理を引き続き行うとともに、地域や学校等と連携しながら、子どもが健やかに育つまちづくりを推進する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例の施行により、自治会・町内会長等との関係づくりのほか、町内会活動支援補助金の活用の促進や、新任自治会長・町内会長を対象とした研修、町内会へのヒアリングを実施し、自治会・町内会を支援している。また、NPOや企業等と地域とのマッチングに向けて、各主体のニーズ等を把握するとともに、地域への情報提供を行っている。自然災害発生時における住民同士の助け合いなど、地域コミュニティの役割が高まる一方で、高齢者就業率の上昇等により地域づくりの担い手不足が課題となっており、今後も大学や企業・NPO等の多様な主体が地域と連携した「共創のまちづくり」の推進へ向けた支援を強化する必要がある。 ・地域住民の相談に応じ、適切な対応やサービスへのつなぎ役としての役割を担う民生委員の担い手不足が課題となっており、人材発掘・育成の取組みを推進する必要がある。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、「よかトレ実践ステーション」の活動支援や地域カフェ・買い物支援などの住民主体の介護予防・生活支援へ向けた取組みの促進を行っている。また、認知症に対する理解促進のため、ホームページ等での啓発、事業所ネットワークと共に大学や地域で認知症講座を実施している。虐待をはじめとする高齢者の権利侵害など緊急支援を要する事案も増加しており、高齢者を地域で支えるためにも認知症に対する理解促進が急務である。また、地域包括ケアシステムに係る関係者間の交流を促進し、医療機関や介護事業所、地域の連携を強化していく必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の活性化へ向け、自治協議会とともに自治会・町内会等の課題やニーズを把握して、補助金の活用や広報支援など、よりきめ細かな活動支援を行う。また、大学や企業・NPO等の多様主体に引き続き働きかけを行い、地域との連携を促進していくとともに連携できていない地域にも、大学などとのマッチングを積極的に推進していく。 ・民生委員の役割や活動に関する講座開催や広報活動を積極的に行い民生委員の認知度向上に引き続き取り組んでいく。また、幹部研修や新任委員研修等各種研修を実施し、現任民生委員の活動支援に引き続き取り組んでいく。 ・医療・介護・地域等様々な主体が、見守り、支え合う仕組みづくりに引き続き取り組んでいく。また、よかトレ実践ステーションの登録推進や活動支援の強化など地域全体で健康寿命の延伸を推進し、健やかでいきいきと暮らせる取組みを進めていく。認知症については、若い世代を含む地域全体の理解がより深まるよう、大学や事業所ネットワーク等と共に働く認知症講座の実施等、取組みを強化していく。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> アイランドシティ地区では人口増加に伴い、照葉はばたき小学校が開校したほか（R6.4）、新設公民館の運用開始が予定されている。当該校区において、良好なコミュニティ形成を促進する必要がある。 九州大学箱崎キャンパス跡地等においては、優先交渉権者が決定し（R6.4）、都市計画等の整備が進んでおり、多くの住民が移り住むことが見込まれている。今後、地域、大学、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> アイランドシティ地区において、照葉はばたき小学校区における共創のまちづくりの実現に向け、近隣校区自治協議会や関係事業者などの様々な主体と連携して、必要な支援等に取り組む。 九州大学箱崎キャンパス跡地等において、周辺住民との交流を含め、良好なコミュニティ形成と新たな都市機能の導入に向け、地域、大学、企業と連携しながら、未来に誇れるまちづくりに引き続き取り組んでいく。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化・自然など東区の魅力について、SNS やホームページ等での情報発信に取り組んでいるほか、観光モデルコースを作成し、紹介している。今後も、東区の魅力を多くの方々に知ってもらい、実際に訪れてもらうことで、賑わいと活力あふれるまちづくりを進めていく必要がある。 「東区芸術文化祭」の一環として、地域や東区在住アーティストとの連携によるアート作品制作をはじめ、なみきスクエアにおいて、大学との連携による作品展示や、市民が気軽に芸術を楽しめる「なみき芸術文化祭」を開催した。「なみきスクエア」を東区における芸術・文化の拠点として、賑わいにあふれ、多くの人が交流し、芸術・文化を感じられるまちづくりを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> 区の SNS やホームページでの情報発信の他、市民との共働による歴史講座等、魅力の再発見につながる取組みを行うとともに、市民や学生を巻き込んだ東区の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進する。 「なみき芸術文化祭」など芸術・文化に関する各種イベントを開催するとともに、情報発信し、賑わいを醸成する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち・博多区

取組み の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち
-----------------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老人人口（65歳以上）	総数
博多区	H12	22,249 (12.3%)	133,247 (73.8%)	24,958 (13.8%)	180,722
	H17	22,015 (11.6%)	138,342 (73.1%)	28,898 (15.3%)	195,711
	H22	21,276 (10.4%)	148,740 (72.8%)	34,371 (16.8%)	212,527
	H27	21,491 (10.0%)	151,343 (70.4%)	42,134 (19.6%)	228,441
	R2	24,119 (10.5%)	163,022 (71.2%)	41,730 (18.2%)	252,034
	R6	23,505 (9.8%)	172,604 (72.2%)	42,907 (18.0%)	262,170
	全市	199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
博多区	H12	6,794 (7.5%)	48,177 (53.1%)	90,776	
	H17	8,286 (8.4%)	54,166 (55.0%)	98,573	
	H22	11,512 (9.3%)	79,610 (64.2%)	124,070	
	H27	15,030 (10.8%)	92,551 (66.8%)	138,629	
	R2	12,234 (7.9%)	102,030 (66.1%)	154,437	
		全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の割合が高い福岡市（R2 国調：52.0%）にあって、博多区は7区で最も高い（同：66.1%）。また、現在の居住地に5年以上住んでいる人の割合は、45.7%（R2 国調）と転出入者（区内転居含む）が多く、共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が90.3%（R2 国調）と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・ほぼ全地域で高齢者数（特に後期高齢者数）が増加している。集合住宅も多く、単身高齢者や孤立化した高齢者も多いため、問題が複雑化・複合化した後に表面化する案件が増加している。また、虐待等への対応件数も増加している。 ・コロナ禍を経て、高齢者の体力や認知機能が低下している現状があり、地域における健康寿命の延伸への取組みの重要性が増している。 ・これらの状況に対応するために、各地域における機関（医療、介護、ケアマネージャー等）や地域団体（自治協、自治会、社会福祉協議会、民生委員、衛生連合会、老人クラブ、NPO等）の相互の連携がますます必要であり、区やいきいきセンターによる地域支援の重要性も増している。 ・また、高齢者に限らず個人や世帯が複数の課題を抱え、それらが複数の分野にまたがることで適切な相談先が見つかからず、制度の狭間で課題がさらに複合化・複雑化するケースがある。こうした状況に対応するためには、包括的な相談体制の整備と、支援につなぐための連携の仕組みが必要となっている。 ・物価高騰により生活基盤が不安定であることや児童扶養手当の受給率が高いことなど、育児不安を抱えている子育て世帯が増えているため、保育施設や相談場所など安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・特定健診受診率が市平均を下回っており（R6n：博多区 24.6%、福岡市 27.5%）、医療機関や地域住民、コンサルタントと連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。
-----------	---

今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例」に基づき、コミュニティが持つ価値を市民と共有し、自治協議会や自治会・町内会の活動を支援するとともに、地域活動の意義や魅力を住民に伝え、企業や団体、学校等との共創により、引き続き持続可能なコミュニティづくりに取り組む。 ・地域で活動する医療・介護等の事業所ネットワークや地域団体の相互連携を進め、区やいきいきセンターの地域連携支援、個別支援の取組みを強化し、地域包括ケアシステムの推進を図る。 ・福祉の総合相談窓口を運営し、複合化・複雑化した課題を抱えた方が制度の狭間に陥らないよう、関係機関と連携して包括的な支援を行う。 ・適切な情報を市民へ提供できるように保育施設等を含む多様な子育てサポート制度の情報収集に努める。また、こども家庭センターにおいて妊娠期から学童期まで切れ目のないスムーズで丁寧な支援を実施する。 ・医療機関や地域住民、コンサルタントと連携し特定健診の受診勧奨を推進するとともに、若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防に取り組む。
----	---

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校区（地区）防災組織においては、頻発する自然災害の発生を受け、地域防災に対する意識の向上や自主的な活動の広がりが見られ、地域防災の機運が高まっている。同時に、市職員等の避難所運営等に対する意識も高まっているため、地域住民、施設管理者、市職員が今以上に一体になり進めていく必要がある。また、避難行動要支援者の支援については、地域によって意識や活動に濃淡があり、地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。 ・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は7区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> * 交通事故発生件数(R6) : 1,198 件 (前年比 117 件減) * 犯罪認知件数(R6) : 3,321 件 (前年比 287 件増) ・自転車の放置台数は、7区で最も多く、特に博多駅周辺及び中洲地区に依然として多く見られる。 <ul style="list-style-type: none"> * 自転車の放置率 (R6.10) : 1.1% (前年同月比 0.3 ポイント減) ・道路の舗装は、車両の通行などで傷みが急速に進行して、損傷が激しい箇所が多く、計画的な修繕が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災については、引き続き防災研修・訓練等を校区（地区）や町内会を対象に博多消防署等と連携し実施する。さらには、職員や施設管理者に対する避難所運営等を含む防災研修等の推進を図るとともに、市民局と協力して避難所における生活環境の充実にも取り組む。また、避難行動要支援者の支援については、避難行動要支援者の支援に係るワークショップ等も活用し、地域の実情に応じた「共助」の体制づくりの支援の充実を図っていく。 ・博多警察署等と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・博多駅筑紫口周辺の治安悪化の再発を防ぐため、巡回パトロール及び注意喚起広報を実施する。 ・歩行空間や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、6か国語表記駐輪場案内チラシ及び街頭指導等により、博多駅周辺や中洲地区において自転車利用者への指導・啓発を行い、放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上を図る。 ・R6nからの「福岡市道路施設アセットマネジメント基本方針」による「道路施設個別計画（R6～R10n）」に基づき、幹線道路や生活道路で舗装アセット事業を推進し、対象路線の状況に応じた計画的な修繕に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多旧市街エリアにおいて、これらを生かした事業に取り組んでいる。 賑わい創出に向け、地域や関係局と連携し、継続的に回遊性の向上や歴史文化資源など地域の魅力発信の充実を図っていく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> * 博多ガイドの会案内人数 (R6n) 定点ガイド 5,350 人、派遣ガイド 1,066 人、地域密着型企画ガイド 744 人 * 博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 R2：中止、R3：中止、R4：44,257 人、R5：70,198 人、R6：60,611 人
今後	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進するとともに、賑わい創出や回遊性の向上を図る。 博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

取組み の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち
-----------------	---

区の人口・世帯動向					
		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老人人口（65歳以上）	総数
H12	中央区	16,380	(10.9%)	115,013	(76.2%)
H17		17,043	(10.5%)	122,962	(75.4%)
H22		17,562	(10.1%)	127,849	(73.8%)
H27		19,531	(10.5%)	133,279	(71.5%)
R2		20,432	(10.9%)	132,168	(70.5%)
R6		20,295	(10.3%)	138,905	(70.8%)
全市		199,940	(12.7%)	1,024,032	(64.9%)
	高齢者単独世帯数		単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	5,683	(6.9%)	47,521		
H17	6,848	(7.4%)	54,284		
H22	9,473	(8.9%)	67,499		
H27	11,893	(10.2%)	73,677		
R2	10,775	(8.5%)	83,088		
全市	81,715	(9.8%)	431,231		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部の魅力を生かした回遊性の向上のため、エリアマネジメント団体「We Love 天神協議会」と共働でまちのにぎわい創出や魅力向上を図っている。R6n は「歩行者利便増進道路」に指定された市道 4 号線にてイベントを開催し、歩行者道路占用道路化することにより歩行者の回遊性の向上、夜間イベント開催時におけるノウハウの蓄積やニーズの検証、周辺交通の影響等の検証を行った。R7n も引き続き天神ビッグバンによりビル建替えが進む状況下にあり、新しく生まれ変わる天神を見据えた戦略と施策を再構築していく必要がある。 ・地域のまちづくりを継続支援し、地域の特性を活かした回遊性の向上に向けた更なる取組みが必要である。 ・セントラルパーク基本計画を踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「We Love 天神協議会」は、新ガイドライン具体化に向け、R6n は領域ごとの部会を開催し、戦略の骨子策定や仕組み構築に取り組んだ。R7n は戦略に基づく具体的な施策の検討を行う予定である。将来の天神を見据えたまちの魅力向上のため、公開空地の活用を継続しつつ、歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）制度の活用を進め、イベントの実施だけでなく、日常的に人が憩う空間を創出するなど、エリアマネジメント団体だからこそ取り組める施策の検討を進めていく。 ・地域のまちづくり団体等の実情・ニーズを把握し、共働によるまちづくり活動を進める。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 住民の自治意識やコミュニティへの帰属意識が希薄化し、地域活動の担い手が不足・固定化しているため、地域活動の意義や役割等を広く周知し、住民の理解促進、自治会・町内会への参加促進などに繋げる必要がある。 区の高齢化率は低いものの高齢者人口は年々増加しており、高齢世帯は単身や夫婦のみの世帯が約7割を占める。オートロックマンションの集合住宅も多く、安否確認や見守りが困難な場合がある。超高齢社会に備え、誰もが個人として尊重され、人生の最後まで住み慣れた地域で暮らしていけるよう、市民や専門職などが主体的に健康づくりや介護予防に取り組み、医療や介護が必要になっても人や地域とのつながりを絶やさず支え合うまちづくりが必要である。 転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> 新任自治会長・町内会長の研修や交流会を継続実施するとともに、NPO等の多様な主体と共に取り組みを行い、新たな担い手の発掘を支援する。 コミュニティサイト「ふくコミ」や区広報媒体への配信等、広報活動を強化するとともに、自治会・町内会におけるデジタルツールの活用促進等を支援する。 本人の意思を尊重した支援が行えるよう多職種間の連携体制の強化や高齢期の備えに関する市民啓発などに取り組み、保健（予防）・医療・介護・生活支援・住まいが一体的に切れ目なく提供される支援体制づくりを推進する。また、健康づくりに対する啓発活動を継続するとともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進を図る。 母子何でも相談のほか、低月齢児とその母、アラフォーママとその児、多胎児とその保護者など特別な支援を要する親子向けのセミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 近年の自然災害の激甚化・頻発化を踏まえて、自身や家族を守る自助の取組みのほか、避難行動要支援者への避難支援等の充実を図るなど、誰もが安心して暮らせる共助のまちづくりを推進する必要がある。 放置自転車については、これまでの対策の浸透により着実に減少しているが、今後も継続的な対策が必要である。 食の安全に関する正しい知識が十分に浸透していない状況にあるため、知識と理解を深め予防行動につながるような取組みが必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> 共助のまちづくりを推進するために、避難行動要支援者名簿を活用した平時の見守りや有事の避難支援、地域による防災訓練・研修の実施など、地域の自主防災活動を支援する。 道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、より効果的・効率的な放置自転車対策を継続的に実施し、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。 食の安全に関する正しい知識と理解を深めるため、Web等を活用した情報発信や啓発活動を積極的に実施し、食の安心へとつなげる。

いきいき南区 くらしのまち ～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～

取組み の 方向性	○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち
	○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち
	○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる うるおいとやすらぎのあるまち
	○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老人人口 (65歳以上)	総数
南区	H12	35,937 (14.8%)	174,163 (71.7%)	32,830 (13.5%)	243,039
	H17	34,007 (13.8%)	173,480 (70.6%)	38,204 (15.5%)	246,367
	H22	33,528 (13.6%)	167,308 (68.0%)	45,186 (18.4%)	247,096
	H27	34,626 (13.7%)	163,562 (64.5%)	55,430 (21.9%)	255,797
	R2	36,103 (13.9%)	163,020 (62.9%)	60,079 (23.2%)	265,583
	R6	35,939 (13.6%)	166,463 (62.8%)	62,479 (23.6%)	271,252
全市		199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
高齢者単独世帯数		単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
南区	H12	6,613 (6.3%)	42,016 (40.0%)	104,999	
	H17	7,514 (6.9%)	43,813 (40.3%)	108,734	
	H22	9,892 (8.8%)	46,220 (41.2%)	112,306	
	H27	13,798 (11.5%)	51,553 (43.1%)	119,487	
	R2	14,397 (11.2%)	59,606 (46.3%)	128,868	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち

現状と 課題	・子育て家庭が育児に不安・負担を感じて孤立化したり、虐待に発展することがないよう、子どもを安心して生み育てられ、子どもが健やかに成長できるための施策が求められている。
	・南区は、25 校区中 18 校区が高齢化率 20% を超え、うち 6 校区が 30% 以上となっている。高齢者単独世帯数は市内 2 番目、その割合は市内 3 番目に高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。
今後	・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていくよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。
	・福祉や防災など「共助」の重要性が改めて認識され、地域コミュニティが果たす役割への期待が高まっている一方、住民の自治意識や地域コミュニティへの関心が希薄化し、地域活動の担い手不足が顕在化している。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南区居住者の 23.6%が 65 歳以上の高齢者であり、外国人もこの 10 年間で約 1.8 倍に増えているため、これらの人に対する災害時における支援の仕組み構築が課題である。 ・南区では、犯罪の少なさに満足している住民の割合は昨年より増加している (R6n: 78.5% (福岡市新基本計画の成果指標に関する意識調査：行政区別(南区))) もの、刑法犯認知件数は増加傾向にあるため (R6n : 1,726 件) 、より一層の地域防犯力の向上を目指す必要がある。また、自転車による交通事故発生件数は昨年より減少している (R6n : 209 件) もの、より一層の減少に向けて、引き続き、交通安全啓発活動を継続させる必要がある。 ・コロナの 5 類引き下げ以降、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、地域住民と居住外国人の相互理解がまだ十分とは言えず、早急な対策が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における高齢者や外国人などの要配慮者の安全確保のため、地域と共に防災意識の醸成、組織や従事者の育成、防災訓練などに取り組む。また、地域の特性に応じた避難所運営マニュアルや個別避難計画の作成支援、校区間の情報共有を図るために連絡会の開催などにより、区全体の防災意識向上につなげる。また、災害時に支える側の人材として、外国人や高校生などを育成する。 ・警察などさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校等の留学生などを対象に、生活面に関わる「ごみ出しルール」や「自転車の駐輪ルール」についての出前講座、「税」に関する広報活動やセミナーなどを実施するとともに、SNS を使った情報発信を行う。地域住民と居住外国人の相互理解を深め、地域住民と良好な関係が築けるような交流事業を実施する。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に水辺や緑などの自然の魅力を発信することで、自然環境の豊かさと地域の魅力を身近に感じてもらうことが重要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・区の自然や魅力スポットを紹介したマップを配布することで身近な自然を発信するとともに、鴻巣山や油山でのワークショップなどを実施し、自然に触れる機会を創出する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区及び周辺部の 7 つの大学と包括連携協定 (H28.12) を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」を H29n から実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16n から実施している。今後、地域課題の解決につながる連携・交流事業を促進する必要がある。 (R6n : 2 件) <ul style="list-style-type: none"> * 「南区こども大学 2024」 (31 謲座実施) 、来場者数 701 人) * 「南区出前講座(大学版)」 (42 謲座実施、参加者数 1,005 人) ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取組みが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを支援するとともに、地域ニーズの把握や大学などへの働きかけを行い、地域課題の解決につながるような継続的な連携・交流を大学、地域に提案する。 ・地域拠点である長住・花畠地域を含む区の西部・南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組み、地域の現状や課題、ニーズ等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。

豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～

- | | |
|---------|--|
| 取組みの方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にするまち |
|---------|--|

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老人人口 (65歳以上)	総数
城南区	H12	16,704 (13.3%)	92,827 (73.8%)	16,212 (12.9%)	126,468
	H17	16,281 (12.7%)	92,145 (72.0%)	19,483 (15.2%)	128,663
	H22	16,495 (12.9%)	88,231 (69.1%)	22,940 (18.0%)	128,659
	H27	16,837 (13.0%)	84,258 (65.2%)	28,215 (21.8%)	130,995
	R2	16,709 (13.3%)	78,051 (62.0%)	31,170 (24.8%)	132,864
	R6	16,120 (12.7%)	78,818 (62.0%)	32,295 (25.4%)	134,156
	全市	199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
城南区	H12	3,381 (5.7%)	28,349 (47.9%)	59,194	
	H17	4,132 (6.8%)	28,615 (47.2%)	60,655	
	H22	5,275 (8.5%)	29,678 (47.7%)	62,189	
	H27	7,206 (11.2%)	31,533 (48.9%)	64,511	
	R2	7,588 (11.3%)	34,148 (50.8%)	67,276	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設・運営については、地域・行政・施設管理者の三者共働による運営体制の確立に向けて、避難所運営マニュアルの整備（R6n末10校区）と訓練を実施。今後も引き続きマニュアルの整備と三者の連携を強化していく必要がある。 ・城南区における刑法犯認知件数は3年連続で増加しており、R6は前年比107件増の997件となっている。ニセ電話詐欺や投資詐欺等による被害が件数、被害額ともに増加しており、区職員や警察官をかたる事案も発生している。城南警察署や地域と連携した取組みを継続・強化していく必要がある。 ・少子化、核家族化が進む中、パートナーと協力して育児することは重要である。パートナーとのコミュニケーションを大切にすることで、育児ストレスや不安の軽減を図り、子育てを楽しむ機運を醸成する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生した際に避難所開設を迅速に行えるよう、避難所運営職員と地域とが協力した避難所開設体制の構築を推進する。 ・避難所運営マニュアルの整備と地域・行政・施設管理者が参加する避難所開設訓練を進め、三者の連携強化を図るとともに、訓練と研修を充実し区職員のさらなる災害対応能力向上を図る。 ・高齢者を狙ったニセ電話詐欺等に関する注意喚起や地域における防犯パトロール活動の支援、街頭キャンペーンの実施など、城南警察署と連携して犯罪のない安全で住みよいまちづくりの実現に向けた取組みを推進する。 ・父親の育児参加を推進するため、パートナーとの良好なコミュニケーションや父親が子育てを学ぶ講座を実施する。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化、活動の担い手不足・固定化・高齢化、自治会・町内会加入率の低下などが問題となっており、活動の担い手不足の解消と担い手の育成に対する支援が必要である。 ・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により独居や認知症の方も多く、高齢になっても住み慣れたまちで安心して住み続けられるように、地域で支え合うまちづくりが必要である。また、若い頃から継続的に運動する住民を増やすことで、健康づくりの推進、健康寿命の延伸を図る必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し、公民館で地域住民の関心の高い様々なテーマの講座を開催する。また、地域活動者への研修を実施するなど人材の発掘・育成支援を引き続き行うとともに、地域コミュニティの『コミュニケーション力』強化を支援する新たな事業に取り組み、地域で支え合いいきいきと暮らせるまちづくりを推進する。 ・地域包括ケアシステムの実現に向け、保健・医療・介護などの専門職や地域関係者と共に個別ケースへの支援内容の検討などを行う各種地域ケア会議を開催し、地域と専門職の繋がりや支援体制の構築を推進する。また、多職種連携研修会を医師会共催で開催し、医療と介護の連携体制を強化する。 ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症の方やその家族に早期に関わる認知症初期集中支援チームの活動を推進していく。 ・運動を始めるきっかけづくりと運動習慣の獲得に向けた運動講座を民間運動施設と連携して開催する。また、介護予防の取組みとして、デジタルゲームを活用した新たな通いの場を創出する。 ・健康寿命の延伸に向けて、年間を通じた広報啓発や個別勧奨等により、特定健診の受診率向上を図るとともに、生活習慣の改善や糖尿病等の生活習慣病の重症化予防のため、健診結果に応じた保健指導に取り組む。

地域と大学が共生するまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数約2万3千人は、全市の大学生の約3割に相当することから、若い学生の活力を生かし地域活性化を促進する必要がある。また、大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などの資源を地域課題の解決に生かす取組みが必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が地域活動に参加しやすい仕組みづくりを構築し、地域と大学、住民と学生の交流をさらに促進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、将来を担う人材の育成を支援していく。また、大学の知的資源や人材を生かし住民が気軽に参加できる生涯学習の場を充実させ、心豊かに暮らせるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にするまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・油山・樋井川の魅力を広く伝えるとともに、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援することにより、自然環境保全意識の醸成を図り、住みやすい環境づくりに生かす必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や地域活動団体等と連携し、油山や樋井川の自然を体感できるイベントの実施や、油山・樋井川の四季折々の情報を区ホームページやSNS等で発信することなどにより、自然環境を大切にするまちづくりを推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組みの方向性	○お互いが支え合い安心して暮らせるまち
	○早良区の特性を生かした魅力あるまち
	○地域の魅力を生かしたまち ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部
	◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
	◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老人人口（65歳以上）	総数
H12	早良区	32,337 (15.9%)	145,141 (71.5%)	25,570 (12.6%)	203,656
H17		31,417 (15.0%)	145,996 (69.8%)	31,730 (15.2%)	209,570
H22		31,510 (14.9%)	142,113 (67.4%)	37,234 (17.7%)	211,553
H27		32,653 (15.1%)	137,689 (63.6%)	46,110 (21.3%)	217,877
R2		32,652 (15.1%)	131,885 (60.9%)	52,021 (24.0%)	221,328
R6		31,438 (14.3%)	133,094 (60.5%)	55,430 (25.2%)	224,727
全市		199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
高齢者単独世帯数		単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	早良区	4,687 (5.8%)	26,881 (33.0%)	81,425	
H17		6,181 (7.1%)	30,195 (34.9%)	86,621	
H22		7,467 (8.3%)	32,128 (35.6%)	90,134	
H27		10,299 (10.8%)	36,104 (37.8%)	95,617	
R2		12,074 (12.0%)	40,423 (40.2%)	100,496	
全市		81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 近年の記録的豪雨や台風など、自然災害の甚大化・頻発化が著しく、自助・共助による地域防災力の強化が必要である。地域のニーズに応じた防災講座・訓練 (R6n:22校区 20回) 及び個別避難計画作成ワークショップ (R6n: 3校区3回) を実施した。訓練やワークショップについては、希望する校区だけではなく、区役所から積極的に啓発していく必要がある。 子育てに困難を抱える世帯が顕在化しており、支援が必要な子育て世帯を早期に発見し支援する必要がある。子ども向け・大人向けの「子どもへの暴力防止プログラム (CAP)」(R6n:延 969名参加) を実施した。また、発達が気になる子とその保護者を対象に、子育てサロン「もちもち」(R6n:15回実施) の開催や、オンライン視聴型子育て講演会 (R6n:130名視聴) を実施した。 健康づくりに役立つ「サザエさん通り食育レシピ集」を活用し、R6n は調理動画の作成・配信や、地域住民や高校生を対象とした食育講習会などを実施した。様々な世代に向けたライフステージに応じた食育を推進していく必要がある。 R6n の早良区特定健診受診率は 29.4%であり、過去最高であった R5nd (29.6%) を下回った。受診率向上に向けて、区の状況に合った啓発活動の工夫や実施医療機関への働きかけ、受診機会の確保等に引き続き取り組む必要がある。 「地域包括ケアシステム」の認識は浸透しつつあるが、これまでの公民館を中心とした取組みに加え、校区自治協議会、校区社会福祉協議会や関係機関等との連携をより一層強める必要がある。 地域コミュニティの基礎となる自治会・町内会活動の活性化や、住民の地域活動への参加促進、新たな活動の担い手づくり等、地域をとりまく課題に即したきめ細かな支援が求められている。
-------	---

今後	<ul style="list-style-type: none"> 住民の主体的な防災対策を促すため、引き続き、講座・訓練を実施するとともに、関係部署、地域、福祉事業者及び外部コーディネーターと連携した個別避難計画作成支援を強化していく。 発達が気になる子どもとその保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、オンライン視聴型「子育て講演会」の実施、子育て情報紙の配布などにより子育て世帯の不安を軽減する。また、学校や地域住民等に児童虐待防止の広報・啓発や、児童虐待への理解・対応力を高めることを目的とした「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」を継続して実施する。 「こども家庭センター」として、母子保健・児童福祉の両機能の連携強化し、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援や地域における体制づくりの充実を図る。また、全乳児家庭の新生児訪問を実施し、育児不安等を軽減し、継続支援が必要な場合は関係課と連携し適切な支援につなぐ。 サザエさん通り食育レシピ集（全4集）を有効活用し、世代別の食育講習会の開催や、レシピの調理動画の配信など、ライフステージに応じた食育を推進する。 特定健診受診率向上に向け、効果的な啓発の機会・手法を検討し、受診勧奨を行う。また、健診実施医療機関への協力依頼や区南部地域の受診促進のため「ともてらす早良」での健診を継続実施する。 地域ケア会議等を開催し、地域の実情に応じた専門職及び地域住民とのネットワークづくりを推進するとともに、認知症支援の強化に重点を置き、関係機関や事業所ネットワーク等と連携した啓発を行う。また、大学・歯科医師会・歯科衛生士会との共創によるオーラルフレイル予防事業を継続する。 校区自治協議会や自治会・町内会が行う地域活動を支援するとともに、住民の地域活動への参画や地域の担い手発掘・育成を促進するため、区の公式インスタグラムや地域コミュニティサイト「ふくコミ」を積極的に活用しながら、地域の魅力発信に取り組む。地域の子ども育成活動の活性化支援や子どもを育む地域のネットワークづくりを進めるとともに、こども育成アドバイザーによるきめ細かな支援などにより、地域が一体となって子どもを育む機運の醸成に取り組む。
----	---

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 区を代表する室見川等の豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 「サザエさん通り」を生かしたまちづくりの推進や、区全域の魅力を発信するプロモーション事業「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした取組みや企画について、幅広い層を巻き込み、より充実したものとなるよう、検討・実施していく必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> 室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 「サザエさん通り」の認知度向上に向け、関係団体との連携を強化し、通り全体でのイベントを企画実施する。また「さわらの秋」では、民間活力を活かし幅広い地域・年齢層に向けた効果的な広報（PR動画発信、SNS活用等）や区内を巡るスタンプラリー企画を実施する。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 区南部地域の活性化に向け、地域、団体、行政が一体となった「早良みなみ塾」事業として、「早良みなみマルシェ」（R6n:約2,000名来場）や「クリスマスイルミネーション」を実施した。引き続き、区内外から幅広い層の来訪者を呼び込み、交流人口を拡大していく必要がある。 脊振山系の魅力を活かした地域活性化に取り組むため、周辺自治体等（那珂川市、吉野ヶ里町、背振少年自然の家）とR4.3に連携協定を締結し、各団体所管イベントへの相互出展や共働キャンペーンの開催など、連携協定を活かした取組み（R6n:5件）を実施した。また、脊振山系の魅力発信を目的として関係団体等と連携し、脊振山系の自然を活かしたイベントを実施した。引き続き、登山関係の企画について参加者層を広げていく必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> 早良みなみマルシェでは、区南部地域の豊かな自然を生かした地域主体の取組みを支援するとともに、情報発信を強化し、来場者層を広げる取組みを行う。また、「早良みなみ塾」の構成メンバーと連携し、区南部の魅力発信企画を強化していく。 脊振山系の魅力を活かした地域活性化に向けて、周辺自治体等と連携し、SNSを活用した情報発信の強化や共働キャンペーン等の企画・実施に取り組んでいく。 また、初心者や家族向けの登山体験イベントを実施するなど、脊振山系の魅力を幅広く発信し、新たなファン層の開拓を図る。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区 ～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を生かし、環境にやさしいまち ○にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち ○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち ○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老人人口（65歳以上）	総数
H12	西区	26,932 (16.2%)	115,406 (69.3%)	24,275 (14.6%)	166,676
H17		28,347 (15.9%)	120,391 (67.3%)	30,026 (16.8%)	179,387
H22		30,181 (15.6%)	126,224 (65.4%)	36,540 (18.9%)	193,280
H27		31,405 (15.3%)	129,439 (63.0%)	44,772 (21.8%)	206,868
R2		30,334 (14.9%)	123,786 (60.8%)	49,317 (24.2%)	212,579
R6		28,052 (13.7%)	124,904 (61.2%)	51,210 (25.1%)	213,301
全市		199,940 (12.7%)	1,024,032 (64.9%)	354,648 (22.5%)	1,656,737
	高齢者単独世帯数		単独世帯数	全世帯	*R6人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	西区	3,413 (5.5%)	16,385 (26.6%)	61,579	
H17		4,375 (6.4%)	19,213 (28.1%)	68,254	
H22		5,723 (7.3%)	25,157 (32.3%)	77,880	
H27		8,216 (9.3%)	32,347 (36.8%)	88,011	
R2		8,921 (9.3%)	39,137 (41.0%)	95,554	
全市		81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「西区環境フェスタ」は、主に将来の環境活動の担い手となる若い世代や子どもを対象に、環境問題や環境活動について楽しく学ぶ、参加・体験型のイベントであるが、内容や人材の固定化・高齢化が課題となっている。R6n は区内の他のイベントとの同時開催や高校生による新規テーマの企画・出展を試行的に実施したところ、来場者数が大幅に増加し、一定の成果を挙げた。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「西区環境フェスタ」を継続開催し、若い世代や子どもが、自分でも取り組める環境活動があることに気づく「きっかけ」とし、行動変容を促す。また、R6n に試行実施した区内の他のイベントとの同時開催や高校生などの若い世代による出展を継続開催し、今後も開催方法や実施内容の見直しに取り組んでいく。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の住民自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化に加え、高齢者の就業率の上昇などにより、地域活動を担う人材の発掘が困難となり、地域活動の参加者減少・固定化の状況がさらに顕著となっている。 ・土地区画整理事業に伴う人口増加地域と郊外の人口減少地域の二極化が進んでおり、特に市街化調整区域では、公共交通機関の減少などの課題が顕著な地域もあり、公共交通機関利用の促進や、地域の魅力を活かしたまちづくり活動の支援に取り組む必要がある。
-------	---

今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援のため、自治会・町内会研修を継続するとともに、補助金の活用事例の紹介やSNSの活用などを通して、持続可能な地域コミュニティの形成を支援する。また、地域の実情に応じて、自治会・町内会の組織・運営支援、広報アドバイザーによる広報支援、集合住宅等に対する加入促進を地域に寄り添い支援する。 ・市街化調整区域のまちづくりに関して、地域主体の取組みを支援するとともに、SNSや地域資源を活用した地域の魅力発信を行う。公共交通機関の利用促進については、「登山マップ」等の更新や定期的な配布のほか、地域や事業者等と連携し、利用者増の取組みを支援・実施していく。
----	---

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と九州大学等が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しづつ構築されてきているが、学生の入れ替わりにより事業継続が不安定となっている。大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かす安定した取組みが必要である。 <p>*九州大学等と地域との連携・交流事業数 R5n : 38回 R6n : 56回</p>
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・九州大学関係者向けに、地域と九州大学の学生等が連携できる情報を記載した広報誌「ふらりにしQ」を発行し、多言語の記事を交えながら西区の魅力を発信することなどにより、留学生や研究者等とも相互理解を深め、九州大学と地域の連携交流の促進を図る。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区や地域において自主的な防災訓練が実施されているが、活動の主体性には差がある。このため、地域ごとの実情に則して、自主的な防災力を高められるよう支援する必要がある。 ・R6における西区の犯罪認知件数は、1,630件と昨年に比べ302件の増となっており、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗事件が多く発生している。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。 ・子育て世代の転出入が多いことから、身近に支援者がなく、孤立しがちな子育て家庭も多い。核家族化や地域社会における人間関係の希薄化が進む中、子育て家庭の育児不安や育児負担感の軽減を図り、孤立化防止や児童虐待の未然防止に取り組む必要がある。 ・地域包括ケアについては、地域ケア会議を開催し個別の事例や校区の特性に応じた支援を行うとともに、増加する認知症高齢者の支援を強化するため、認知症サポーター養成講座やユマニチュード講座、「西区オレンジフェスタ」などを開催している。少子高齢化が進展し「共助」の重要性が高まる中、認知症の早期発見・早期対応、ACP※の普及・啓発、在宅医療・介護における多職種連携など、地域における包括的な支援体制の構築に向けさらなる取組みが必要である。 <p>※ACP：将来の変化に備え、自分が大事にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを受けたいか等を、自分自身で前もって考え、家族や周囲の信頼する人と繰り返し話し合い、共有しておくこと。</p>
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き校区自主防災組織研修会等を通じて、行政からの防災情報や他校区での取組み等を情報共有するとともに、避難行動要支援者の個別避難計画について、自治会単位での作成を支援していくことにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくため、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺、SNS型投資・ロマンス詐欺等を未然に防ぐための啓発活動に取り組んでいく。また、西区役所全庁用車（軽自動車）の青パト化を実施したことでの区職員が外勤帰庁時（主に小学校の下校時）に青色回転灯を回す機会を増やし、地域住民の防犯意識の向上を図るとともに、街頭犯罪抑止に取り組む。 ・育児不安軽減のため、身近な場所での育児相談会や低月齢児親子教室、子育てサロンや父親向け講座の開催により、親子の交流の場を設け、子育て家庭の孤立化防止に取り組んでいく。 ・地域包括ケアについては、これまでの取組みの振り返りとともに、個別支援や専門職・地域団体等とのネットワーク構築など重層的な地域ケア会議の開催や認知症施策の普及・促進、多職種連携の充実などにより、市民、地域、企業など多様な主体との連携を図りながら、引き続き地域包括ケアの充実に取り組んでいく。